

あおがしま

青ヶ島港の舁取り解消(青ヶ島港港湾整備事業)

受賞機関 東京都港湾局離島港湾部計画課

はじめに

青ヶ島港は平成12年度まで日本で唯一、舁取りによる荷役が行われていた港である。このため、生活物資の安定した搬入ができず、島民生活に多大な不便を与えていた。こうした状況から当局では、早急な舁取り荷役の解消を目的とした貨物船接岸施設を計画し整備を進めてきた。

事業の概要

施設名：青ヶ島港防波堤

延長：160m

幅：9m～25m

事業実施期間：昭和62年度～平成12年度

事業費：8,727百万円

事業の特徴

(1) 暫定接岸を視野に入れた防波堤計画

青ヶ島の波高は、年間平均で約2m、冬季は5～6m、台風通過時は10m以上となる。この厳しい海象条件下で貨物船が直接接岸できる港湾を整備するには、外郭施設及び係留施設ともに大規模なものとなる。このため、全ての事業を実施して貨物船が直接接岸できるようになるには膨大な時間と費用を要する。

そこで当局では早急に舁取り荷役を解消するといった観点から、旧運輸省と調整し、最初に整備する防波堤に、貨物船を暫定的に接岸させることを計画し事業を実施してきた。このため、本防波堤には、防舷材、係船柱等の係留施設を有し、提体前面は貨物船が航行可能な水深を確保している。

(2) 厳しい海象条件の克服

前述の通り、青ヶ島港の海象条件は厳しく「2日



現在の青ヶ島港



「舁取り」による荷役状況

間続けて工事はできない」と言われる程である。年間を通して施工期間は約6ヶ月程度しか確保できず、限られた期間で確実に整備する必要がある。このため、現地での海上工事期間が短く手戻りのない大型鋼構連結工法を採用し、鋼構の上下・左右・前後を継ぎ材で連結した波力に強い一体構造とした。

(3) 仮設備の設置

コンクリートプラント等全ての仮設備は本土より搬入し、現地で組み立てて使用した。さらに、海面を埋め立てて鋼構組立ヤードを造成するなど、現地の厳しい施工条件に対応した。

(4) 財源の確保

都の厳しい財政状況の中においても、防波堤の建設に必要な財源については確実に確保するとともに、進捗を促進するため、補正予算の確保にも努め、重点投資による整備促進を図った。

以上のような厳しい条件を克服し、整備期間の短縮に努めた結果、平成12年度末において当初予定よりも約2年早く貨物船の接岸可能な延長まで防波堤が完成し、島民の長年の夢であった危険な舁取り荷役が解消された。

受賞賛助会員 五洋建設㈱



「黒潮丸」暫定接岸の様子